

### 仔豚の管理方法と豚糞桿虫卵排泄の消長について

長野 鍊太郎\*・伊藤 祐之\*\*

NAGANO, R. and ITO, S. Change of *S. ransomi* Eggs upon Several Management of Young Swine

豚の各種寄生虫の初期感染は仔豚の哺乳時期であるものが多く、この頃の飼育管理の適否は寄生虫の感染に影響するところが大きい。我々はその防遏に資するため豚糞桿虫について虫卵排泄の消長、及び仔豚の管理方法が木虫の感染に及ぼす影響について調べた。

#### 方 法

1. 寄生虫卵排泄の消長については生産時期を異にする仔豚 50 頭について生時から 12 カ月令に至る間 5~10 日毎に糞便検査し寄生虫卵の排泄状況を調べた。

2. 豚房の敷料及び洗滌、薬剤撒布等が虫卵排泄に及ぼす影響について調べた試験の概要は第 1 表の通りである。

#### 成 績

##### 1. 糞桿虫の感染率

仔豚の生産時期別にみた生後 1 年迄の感染率は何れも 100% で、その他の寄生虫においては仔豚の生産時期により幾分異なるものもある。

##### 2. 虫卵の初排泄及び最多期

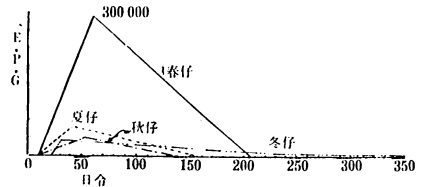
一般に仔豚では 20 日前後 (5~30 日) から排便が始まり E.P.G が最も多くなるのは生後 1~3 カ月であ

り、以後減数し生後 5~6 カ月頃になると著しく減数し、生後 1 年以上となつてもなお虫卵の排泄をみるものは約 4% であつた。

##### 3. 仔豚の生産時期別の糞桿虫卵の消長

第 1 図の通り虫卵の初排泄は仔豚の生産時期により大差なく生後 10~30 日であつて、これは生後略同一時期に感染したものとみられ、即ちこれらの感染仔豚の年間を通じて試験地の気温においては常在するものと解される。また虫卵排泄の最盛期は生後 1~3 カ月で生産時期別により大差がないことは、この虫が幼豚においてのみ感染し易く、また寄生濃度が春のものが他に較べ著しく多いのは糞桿虫の地上における特殊の増殖が春季から梅雨季に助長されるためと解される。

第 1 図 糞桿虫卵の消長 (仔豚の生産時期別)



##### 4. 敷料が虫卵排泄に及ぼす影響

稲藁を 1 週間毎に豚房に敷きこんだ場合の排泄虫卵数と無敷料の場合とを比較したのが第 2 図で、両区とも試験終了時までの感染率は 100% であつたが排泄虫卵数は試験区において著しく多く、敷料をしいた豚房内の湿度等が虫卵の發育を助長するように思われる。また鋤屑を敷いた場合も第 3 図に示すように感染率は

第 2 表 虫卵の初排泄・最多期等

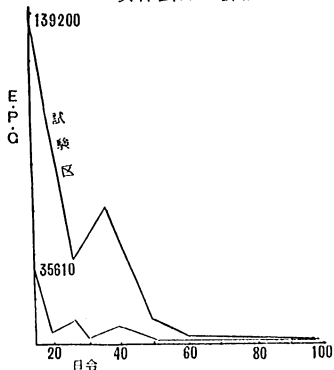
種別	糞桿虫	その他の寄生虫				
		蛔虫	腸結節虫	大腸バランチヂウム	鞭虫	肺虫
虫卵の初排泄時期 (日令)	19.3 (5~30)	85.6 (50~160)	68.1 (20~105)	53.6 (20~100)	85.6 (50~220)	197 (30~300)
排泄虫卵最多時期 (日令)	45 (8~110)	149 (80~260)	197 (130~310)	222 (130~320)	178 (50~360)	293 (170~360)
生後 1 年における排泄豚 (%)	4.2	12.5	5.7	65	24.5	54

第 1 表 仔豚の管理方法

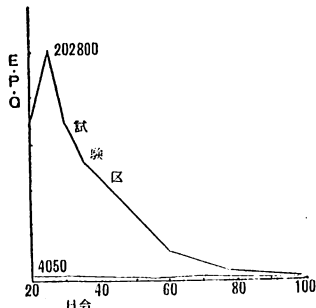
試験区分	豚房の状況	供試豚	備考
敷料	稲藁	雑種 5 頭 昭 32.10 生	生豚房の広さ 3.27m <sup>2</sup> (2.25 坪) のコンクリート床 (5 頭)
	鋤屑	Y 種 4 頭 昭 30.9 生	対照区は 1 週間毎に清掃 (4 頭)
洗滌	水洗	B 種 5 頭 昭 30.3 生	" (5 頭)
	水洗薬剤添加	Y 種 9 頭 昭 34.3 生	" (9 頭)
薬剤撒布	BHC 粉末	B 種 5 頭 昭 31.5 生	" (5 頭)
	3% γ 照 BHC 粉末 500gm を 3 日毎に撒布 (敷料は鋤屑)		対照区は 2 区、各区 5 頭

\* 九州農業試験場 \*\* 農業技術研究所

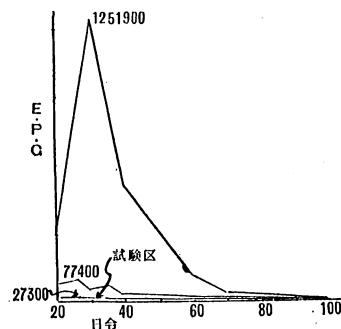
第2図 稲藁敷料を湿潤した状態においた場合の糞桿虫卵の排泄



第3図 鋸屑敷料を湿潤した状態においた場合の糞桿虫卵の排泄



第4図 BHC粉末を豚房内に散布した場合の糞桿虫卵の排泄



100%で鋸屑は本虫の感染予防には

効果なく、逆に鋸屑堆積による熱及び湿度が本虫卵の発育を助長するようと思われる。

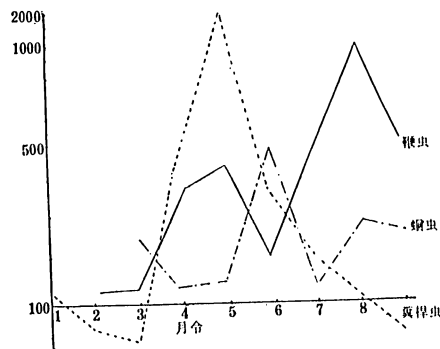
### 5. 洗滌が虫卵排泄に及ぼす影響

春生産した仔豚を用い豚房を毎朝1回水洗した結果試験区、対照区とも本虫の感染率は100%で、排泄虫卵数は試験区において甚だ多い結果を示し、冬季分娩仔豚では洗滌は本虫の感染予防に効果を認めたのであるが、春季の場合は逆の結果となつた。このことは洗滌によつてコンクリート床面上に残溜した水が春季から初夏への温暖な気温と相俟つて本虫の絶好の培地を与えた結果ではないかと思われる。また洗滌と同時に5%クレゾール石鹼液を散布した結果排泄虫卵数は試験区の方が多く洗滌、薬剤散布等の効果はえられなかつた。

### 6. 薬剤散布(B.H.C粉末)が虫卵排泄に及ぼす影響

3%状態B.H.C粉末を1豚房当り(3.27平方m)500gを3日毎に散布した結果、第4図に示すようにB.H.

第5図 排泄虫卵数と仔豚の発育(発育良好群の虫卵数を100とする)



C添加区の排泄虫卵数はその他のものより少くB.H.C添加は本虫のlarvaの防遏に効果があるものと認められる。

### 7. 排泄虫卵数と仔豚の発育

試験豚の平均体重より大なる群の排泄虫卵数(E.P.G.)を100とし、発育不良豚群のそれを指数で示したものが第5図で発育不良豚群の排泄数は多い。